

恵みから恵みへと生きましょう

～実り多き人生～

15:1 わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。15:2 わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。15:3 あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことによって、もうきよいのです。15:4 わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。15:5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。

皆さんおはようございます。今日ここで共に主イエス・キリストを礼拝できることを大変嬉しく思います。今日はゲストスピーカーとしてお招きくださりありがとうございます。今朝、皆さんのこの教会で神にお仕えできることを光栄に思います。

1.まずは、説教の前に自己紹介させていただきたいと思います。

私は黒田禎一郎と申しまして、北浜インターナショナル・バイブル・チャーチの牧師です。この教会が主にお仕えしてから 3 つ目の教会になります。私が牧師になるなんて思いもしませんでした。それが神のご計画でした。

・私は 1946 年に台湾で生まれました。第二次世界大戦から 1 年後のことです。私の両親は台北に住んでいて、そこで仕事をしていましたが、1947 年には日本への帰国を余儀なくされ、私は名古屋で育ちました。私は 1970 年にドイツのデュッセルドルフへ行き、現地の大学で学びました。数年学んでから帰国して母校に帰り、教授になりたいと思っていました。

・けれども主は素晴らしいお方です。私の人生のために素晴らしいご計画を用意されました。私がクリスチャンになったのは 14 歳の時で、教会にも通っていました。私には日本を出て世界中の人のことを知りたいという夢があり、異文化や言語に興味がありました。ですが、どうやって海外に行けばいいのか全く分かりませんでした。55 年以上も前の話です。その時は、ほとんどの人が日本に留まっていたから、海外へ行くなんて夢のような話でした。

・22歳になったとき、デュッセルドルフとトリーアの2箇所の大学で勉強するために神は私をドイツへと導きました（当時は西ドイツでした）。言語を習得するのは私にとっては難しく、時間を要しました。けれども、神は私のためにご計画をお持ちだったのです。

・デュッセルドルフの町は、その当時いわゆる「日本の居留地」と言われる場所でした。それは、多くの日本人がそこで働き、家族と共にそこに居住していたからです。当時は約1万人の日本人が住んでいました。その人たちはいわゆるトップ企業の人であったり、社会的地位の高い人であったりと、有名な学校や大学に進学した人たちでした。ですから大変裕福な人たちでしたが、霊的にはとても貧しいようでした。

・日本人の中には、小さい日本人の集まりの中での問題や争い等のために自死する人もいました。彼らには生きる目的がなく、人生のゴールが何なのか知らなかったのです。私はクリスチャンでしたから、イエス・キリストの福音と神の御言葉を彼らに伝えたいと思っていました。私たちの人生は一度きりです。

・ですから私はまだ大学生でしたが、日本人向けにデュッセルドルフで聖書の学びを開き始めたのです。主は日本人に対するこの働きを祝福くださいました。少しずつ参加者が増えて、多くの方が主・イエス・キリストによって救われました。

・1976年に、主は私を牧師になるよう召され、私はデュッセルドルフで日本語クリスチャン教会を設立しました。ヨーロッパ初の日本語の教会です。私が全く気づかないうちに、神はドイツでご自身の器として私を用いられることをご計画になっていたのです。

・またドイツでの滞在中に他にも主は私のために素晴らしいご計画を持っておられました。1960年の終わりから、ドイツ政府はロシアやルーマニアなどその他の東ヨーロッパの国々からドイツ人を呼び戻し始めました。18世紀に何千ものドイツ人たちが東ヨーロッパの国々に移住していたのです。それから300年以上経過していても、彼らはドイツ人としての文化と言語を保持し、ドイツ人居留地を作っていました。

・第二次世界大戦後、ドイツが東西に分断されてしまったことを皆さんはご存知でしょうか。東ドイツとその他の東ヨーロッパの国々は、共産主義と社会主義に支配されてしまいました。つまり、彼らは聖書の生ける神を認識していなかったということです。ですから無神論者が多くいましたし、クリスチャンや教会はかなりの迫害を受けていました。

・主は、私の人生のうちに、この共産主義の国々から脱した人たちと会うようご計画を立ててくださっていました。私は、これらの国にクリスチャンが多くいるとは思っていませんでしたが、実際には多くのクリスチャンたちがいました。クリスチャンたちはキリストへの信仰のゆえにひどい迫害に遭っていました。多くのドイツ人やユダヤ人たちがシベリアにある強制収容所や強制労働収容所に送られました。今日はそのお話を全てする時間はないのですが、こうした鉄のカーテンの背ろの国々が、私の主における働きの始まりだったのです。

・主はまずわたしをドイツへ連れて行き、デュッセルドルフ日本語クリスチャン教会を設立させるというご計画をお持ちで、そしてロシア系ドイツ人やルーマニア系ドイツ人と出

会うご計画をお持ちだったのです。私は最終的に 12 年もドイツに滞在することとなりました。神のご計画でした。

・日本に帰国してから、主は既に堺でインターナショナルチャーチを設立するために私を用いるご計画をお持ちでした。英語とドイツ語会話の学校を開き、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、英国、シンガポール、ドイツ、スイスなどからクリスチャンの先生を呼び集めました。英語とドイツ語で聖書の学びを持ち、この堺にできた言語学校から最終的に堺インターナショナル・バイブルチャーチができました。私たちにとって素晴らしい時間となりました。

・1989 年に、皆さんも知っているようにベルリンの壁が崩壊しました。その翌年、東西ドイツが統一され、一つの国となりました。それは歴史的出来事でした。1991 年には旧ソビエト連邦が崩壊し、続いてその他の東ヨーロッパ諸国が半年の内に次々に崩壊しました。そしてそれぞれが独立した国となったのです。共産主義の国とその他東ヨーロッパの国、という垣根がなくなり、その時ヨーロッパは 1 つとなったのです。

・当時人々は、ヨーロッパがどのような方向に向かって行くのか興味深く思っていました。ノンクリスチャンの人たちが私に興味を持たれ、講義をしてくれと招待されたこともありましたが、彼らはクリスチャンや教会ではなかったのですが、ライオンズクラブやロータリークラブ、商工会議所等に招かれたものです。

・私は牧師でしたから講義で聖書を使いました。ですから未信者の人たちも、聖書に興味を示されました。そして会社員向けに聖書の学びを始め、沢山の方が参加されるようになりました。そうして北浜インターナショナル・バイブルチャーチが生まれたのです。私のビジネス講義から生まれた教会です。

・今までの人生で、神は 3 つの教会の設立のために私を用いられました。私はまた「宣教の声」というミッションも立ち上げました。世界中で迫害されているクリスチャンや教会を手助けするためです。毎月、月刊誌の記事を書いてもう 40 年になります。さて、これが私の生い立ちの簡単な紹介です。

2.では、説教に移りましょう。

イエスは、十字架にかかれる前の苦難のうちにぶどうの木のとえを教えられました。このたとえ話がなぜ重要なのかはわかりますね。では、このたとえの本当の意味は何なのでしょう？

まず、イエスは「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。」と言われました。(15 : 5)

・イスラエル人は、選ばれしぶどうの木だったに違いありません。農夫である神が良いぶどうの木を植えたにも関わらず、それは悪い野生の木のようになっていました。良いぶどう酒のための良いぶどうの木が植えられたにも関わらず、悪い実を結ぶ悪い木になっ

てしまったのです。それが現実の結果でした。

ですが、それはなぜだったのでしょうか？⇒それは、イスラエルの罪と不信仰のためでした。

・けれども、農夫である神は愛の神です。神はその木が良い実を結ぶようにご計画を実行されたのです。そしてその計画はイエス・キリストを通して成就されました。

#### 1) イエスはまことのぶどうの木である

・イエスは、15:1 で「わたしはまことのぶどうの木である」と言われました。「まことの」という意味は、本当の、偽りのないものということです。イスラエルのようなものではなく、「本当のぶどうの木」ということです。

・皆さん、農夫は木が良い実を結ぶことを重視しています。

#### <例>

・ドイツのモーゼル川沿いには、両岸にぶどう園が広々と広がっています。この大きな544kmにも及ぶ河川はルクセンブルクを通過してドイツに注ぎ、フランスへと流れるライン川と繋がります。緩やかに曲がる川の両岸に美しいぶどう園が広がります。この川は、私が勉学に励んだ大学のあるトリーアの町をまず通ってドイツに向かって走っています。

・私がホームステイしていた家からは、大学まで自転車で一時間かかりました。大学に通学する途中で目にするぶどう園の農夫たちの仕事には非常に感動しました。農夫たちは雪の降る冬の寒い日も夏の暑い日も毎日そこで仕事をしていました。

・秋の収穫はわずか一週間ほどでした。収穫の時期には学校がなかったので、大人も子どももこぞってぶどう園でぶどうを収穫しました。とても喜びに満ちた時です。彼らは、この一週間のために丸一年誠実に働いていたのです。そこで、有名なモーゼルワインが作られているわけです。

#### 2) 農夫の仕事

・農夫は、ぶどうの木を慎重に扱います。ヨーロッパのぶどう栽培は、生垣仕立てや日本でも見られる棚仕立てがメインです。当時のパレスチナ地方でのぶどう栽培は、ぶどうの枝を地に這わせる方法を取っていました。それは、枝を夜露にさらすための方法でした。今日のイスラエルでもこのような枝を見ることができます。けれども、実を実らせるためには地表とぶどうの枝の間に適切な量の空気を必要とします。ですから、農夫たちは地表と枝の間に大きな石を置き、そこに枝が這うようにして実を実らせました。父なる神も、私たちが実を実らせるために環境を整えてくださいます。農夫の仕事には主に 2 つの仕事が必然的に伴います。

##### ①枝を取り除く

ヨハネ 15:2 には、「15:2 わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、」と

あります。日本語訳では、「わたしの枝」となっていますが、英語訳では「どの枝も」となっています。「実を結ばないもの」というのは、原語では「実を実らせようとする意志のないもの」という意味があります。もう一つの農夫の働きは「刈り込み」です。

## ② 枝を刈り込む

15:2 「…実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。」

「刈り込み」をすることは、原語では「kathairo」で、「きよめ、取り去る」という意味です。古い時代、人々は刈り込みを「きよめ」と比較しました。「刈り込み」は「きよめ、取り去る」という意味で使われています。ドイツ語の聖書では「洗いきよめる」という意味の「reinigen」という言葉を用いています。ヨハネの福音書 15 章 5 節は「枝を刈り込む・切り落として整える」と訳されています。刈り込みの目的は実をたくさん結ぶことです。刈り込みは農夫の役目であり、枝は自分で刈り込みをすることはできません。

・刈り込みは実をしっかり結ぶためになされます。刈り込みを経験しないクリスチャンはいません。誰かが人生の困難を経験しているとしたら、それは父なる神がその人の刈り込みをされているということです。そうすることで多くの実を結ぶようになるからです。

・イエスは、刈り込みによって豊かな実がもたらされると言われました。聖書は様々な種類の霊的実りについて教えています。例えば…

### (1)御霊の実：ガラテヤ人への手紙 5:22-23

5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、5:23 柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。

### (2)光の結ぶ実：エペソ人への手紙 5:9

5:9 ——光の結ぶ実は、あらゆる善意と正義と真実なのです——

### (3)くちびるの果実：ヘブル人への手紙 13:15

13:15 ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。

・神は祝福の実を結ぶために刈り込みを用いられます。

## 3) 実を結ぶための秘訣

・ところで、私たちも人生において実を結びたいものですね。イエスは、実を結ぶための秘訣を 2 つ教えられました。

### ① 神の御言葉

ヨハネ 15:3 「あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいの

です。」

・イエスは、変わったことをおっしゃっていますね。「私のはなした言葉のゆえにもうきよいのだ」と。行いによるのではないのです。例えば、イエスは弟子たちの汚れた足を洗いました。ポイントとなるのは、イエスの御言葉であって、足を洗ったという行いではありません。イエスは、御言葉こそがきよめるものなのだとされました。

・先ほど、「刈り込み」の部分が、ドイツ語では「**reinigen**」という言葉で「きよめる」という意味があるとお話しました。イエスはここで「私のはなした言葉のゆえにもうきよいのだ」と言われています。これは 15 章 5 節に繋がりががあります。イエスの行いではなく、御言葉に権威があるのです。

ヨハネ「15:5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。」

この言葉に権威があるのです。もう一つの秘訣は、イエスにとどまることです。

## ② イエスにとどまる

・枝は、たとえどんなに努力したとしても自身で実を結ぶことはできません。

ヨハネ 15:4 「わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。」

・聖書は、実を結ぶための重要な秘訣を教えています。→「わたしにとどまりなさい」です。私たちは容易に離れてしまい、実を結ばない者となってしまふものです。

・皆さん、私たちが神に信仰を持っているからといって、自動的に実を結ぶのではありません。「わたしにとどまりなさい」です。私たちは、自分たちの選択で、自分たちの意思によってイエスの御言葉にとどまらなくてはなりません。イエスは「15:3 あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです。」とされました。

・イエスの血は私たちの<sup>けが</sup>汚れやしみをきよめる力のあるものです。ですから、聖書の神の御言葉にとどまらなければなりません。

・御言葉が秘訣です。私たち「枝」は、日々のデボーションの時を通して、ぶどうの木であるイエスにとどまることができます。枝は木からの栄養が必要です。それと同じように私たちがデボーションの時間を持つことで栄養をいただくことができます。

・このように学んでみると、ぶどうの木と枝の関係は、人生に関わることだと分かります。ぶどうの木と枝にはそのような関係があるのです。→「いのちの交わり」

・皆さん、キリストの教会には「いのちの交わり」があります。イエスは生きておられ、教会のかしらであられます。「いのちの交わり」は、キリストのいのちをも含む共同体です。いのちの共同体は、イエスを示すものですから、汚れやしみがあべきではありません。そこはこの世で御国を体験できる場所なのです。イエスはこのようにされました。

ヨハネ 15:5 「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れ

ては、あなたがたは何もすることができないからです。」

今年、ぶどうの木であられるイエス・キリストにしっかりととどまりましょう。イエスから栄養をいただき、キリストにあって多くの実を結びたいものですね。

## 結論

恵みから恵みへと生きましょう

～実り多き人生～

1. 神に感謝しましょう。

天の父なる神は農夫であり、イエス・キリストはぶどうの木です。

2. ぶどうの木にしっかりととどまりましょう。→御言葉の栄養を豊かに受けるためです。

「いのちの交わり」の教会を建て上げましょう。神の素晴らしいご計画のうちに生きることで、祝福された人生へと導いていただけます。

今からでも、実り多き人生を始められるのです。今一度神に感謝しましょう！

神の祝福がありますように。